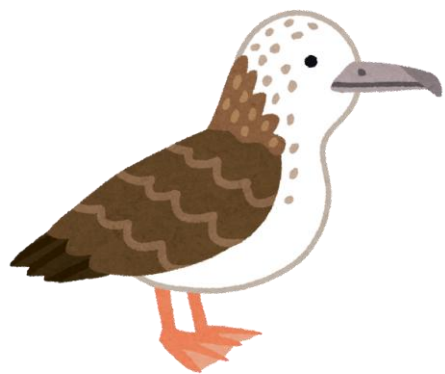


福岡県 宗像市役所・宗像市社協 様 重層事業 意見交換会（令和7年7月25日）

当事者だからこそ伝えられる **重層4年目** のリアルと効果

～ 社協が重層に取り組む意義とは？ ～



オオミズナギドリ

愛知県

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口 相談支援包括化推進員

（個人情報保護の観点から事例やケース概要を削除する等、内容を一部変更しております）

これから、お伝えするのは

『等身大の取り組み紹介』です！

間違っても・・・

先進事例 では、ありません！

実際に取り組んで良かったこと(重層の効果) や
苦勞したこと、今後の課題、これからの展望 等、
具体的な取り組み方 から 重層推進の考え方 まで
等身大の実践 を余すことなく お伝えします！

併せて

なぜ、社協が取り組むのか？ も

社協目線でお伝えします！

これまでの実体験、艱難辛苦、主観10割ですが

何か一つでも、

皆さんの参考 になれば幸いです！

これまでの研修会で頂いたご感想

- ・『程よい（先進的すぎない重層の）取り組み』が聞けて良かった！
- ・実際に取り組んでいる（等身大の）社協の話が聞けて良かった！
- ・重層は『 難しい取り組みではない 』 ことが分かった！
- ・『 社協の取り組み = 重層の取り組み 』 ・ ・ ・ なるほど！（腹落ち）
- ・涙が出た、勇気が出た（これまで聞いた多くの研修や講演の中で間違いなくNo.1）
- ・自分がやりがいを感じ、仕事を楽しむことを忘れかけていた 等

この情報交換会の『ゴール』は、

重層の基礎理解 と あなたの腹落ち です！

社協の皆さんに問題

重層事業 と 社協事業 の 共通点 は何？

もくじ

- 1 重層の基礎理解
- 2 稲沢市の取り組み紹介
- 3 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？
- 4 具体的な取り組み方『How-to 重層』
- 5 課題への挑戦
- 6 社協が重層に取り組む意義とは？

1 重層の基礎理解

重層推進は『共感と共創』が9割

- 1-1 重層の基礎理解
- 1-2 重層推進とは何か？
- 1-3 重層推進（活用）の効果



稲沢市社会福祉協議会
マスコットキャラクター『福ちゃん』

1-1 重層の基礎理解

＊別添『超解説 重層的支援体制整備事業 リーフレット（内側）』をご覧ください！

- ・ 『包括的な支援体制』を創るための事業（便利ツール）

（重層は、主要5事業の強化と一体的連動を目指す事業です！）

＊相談支援・参加支援・地域づくり・アウトリーチ・多機関協働の5つ



- ・ 『地域共生社会の実現』を目指します！

重層は『包括的な支援体制』を創るための

『便利ツール（事業・手段）』です！

⇒ なので、別の手段（既に取り組んでいる地域包括ケアシステム等）が充実していれば、使わなくてもOKです！

重層の基礎理解に最適（重層推進担当者は必読！）

『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

⇒『なぜ、重層ができたのか？』『そもそも、重層って何？』
『重層の概要』から『取り組み事例』まで『分かりやすく』
紹介されています！

重層推進担当者は（重層の周知啓発役を担うので）

重層の意義を『自分の言葉』で中学生にも説明できる

ようにしておいてください！

⇒ 自分が腹落ちしていないのに、他者を『巻き込む』ことはできません！

説明は『相手の理解度に合わせて言葉を変える』必要があります！

1-2 重層推進とは何か？

みんなで『理想の包括的支援体制』を創る『過程』

【 推進のポイント 】

①**主要 5 事業の強化と一体的連動を意識する！**

特に『参加支援』と『地域づくり』の充実が重要！  **ここで差が出ます！**

②**共感から共創（協働）への流れを意識する！**

多職種連携は『様々な関係者と苦楽を共にする支援の過程』で育まれる！

⇒『〇〇連携会議』や『各分野への通達』くらいで連携できるなら苦労しない！

重層推進（包括的な支援体制づくり）は、

行政及び関係者『全員』で取り組んでいくもの

誤解① 行政と重層の委託事業者だけで取り組むものではありません！

誤解② 『総合相談窓口の新設』や『支援体制の概要図を描くこと』でも
ありません！（概要図を描いた時がスタートです！）

重層推進の公式（＊私の仮説です。現在、検証中！）

重層推進（包括的な支援体制づくり）

$$= \text{『制度理解』} \times \text{『取り組み方』} \times \text{『意識改革』}$$

（How-to 重層） （当事者意識の醸成）

⇒ 重層推進で最も苦勞するのは 『当事者意識の醸成』

重層で創ろうとしているのは・・・

人と人との繋がり

人と人との繋がり ⇒ 抽象化 ⇒ 包括的な支援体制

1-3 重層推進（活用）の効果（法制度的）

各事業の法制度による（属性や年代等の）縛りが

緩和されます！ ⇒ 『補助金の使途縛り』が緩和されます！

⇒これで、誰もが（本業に支障がない範囲で）専門分野外の相談を受けたり、

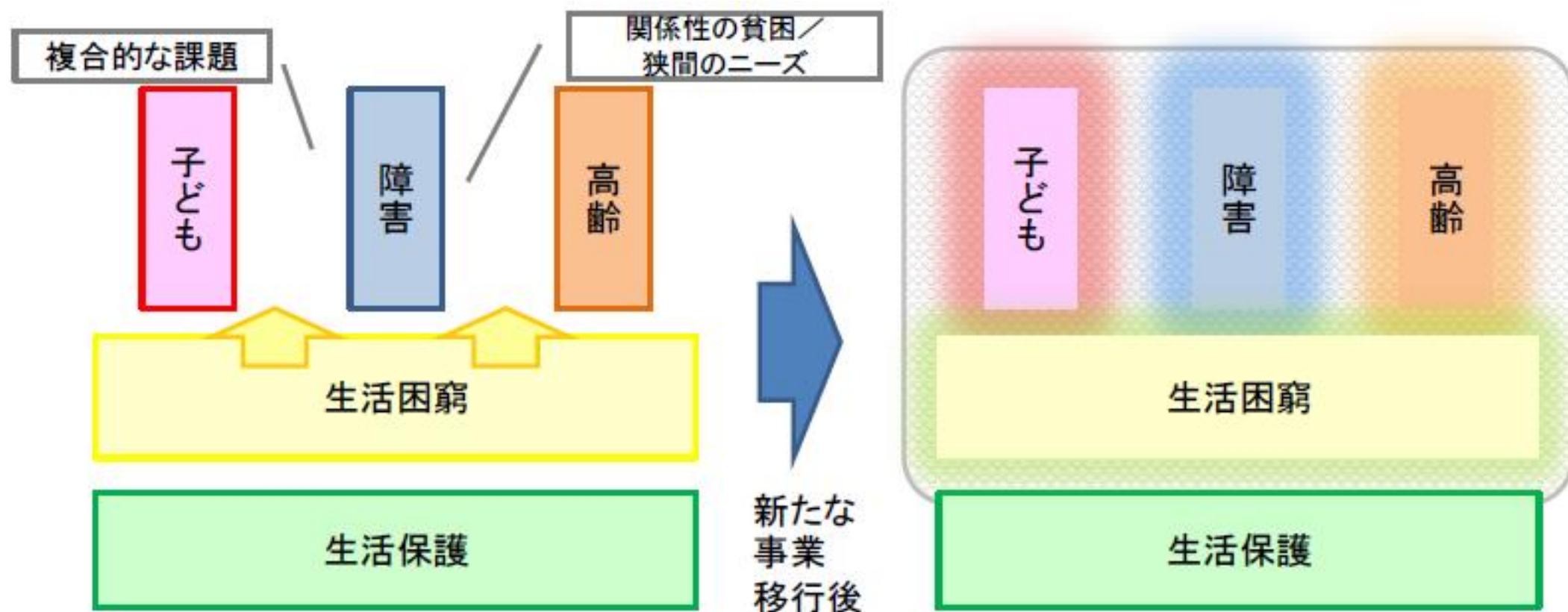
制度の狭間に支援の手を差し伸べたりすることが『可能』になります！

こんな感じになります！

(厚生労働省の研修資料より引用)

【移行前】

【移行後】 稲沢市はこっち↓



重層推進の効果（私の実感）

『制度の狭間や複合課題に対応できるようになる』だけではなく

①（みんなで支えあうから）支援者の心理的負担 や 抱え込み が減った

②職場内外を含め横の繋がりが強化 された

⇒回りまわって『私の仕事も充実』 してきた！

重層に移行してから職場内外問わず、他分野との協働が本当に増えた！

他者と協働して、何かを成し遂げると充実感を味わえる！

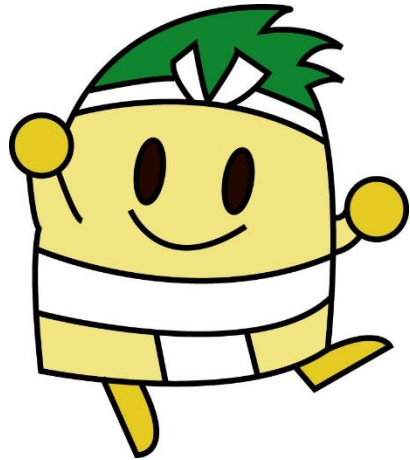
～SSWから実際に頂いた言葉～

『もう、一人で抱え込まなくてもいいんですね・・・』

(子育て分野の専門職向け 重層説明会にて)

重層の効果 として、全国を知るようになってから
社協が置かれた状況 や 稲沢市の強み 等
様々なものが 俯瞰できる ようになりました！

2 稲沢市の取り組み紹介



©稲沢市 いなっぴー

今年で『**4年目**』

まだまだ、道半ば・・・



稲沢市の概要

愛知県の北西部 濃尾平野の中央に位置

人口：132,435人（令和7年4月）



- ・ 令和4年度から
『福祉の拠点』を中心に重層を展開！
(稲沢市役所東庁舎1階の総称)

愛知県内でも珍しい！（同じ庁舎内）
福祉課と社協が隣どうし！



重層に取り組んだ背景

『複雑・複合的な課題を抱えたケースが増加』



原因別・分野別（補助金使途縛り）の支援体制では、対応困難

- ・ **第4次 地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和2年度～6年度）**



基本目標『相談体制の充実』

- ・ **ワンストップ福祉相談窓口の整備**

福祉の拠点（福祉課と社協）＝ 重層推進の拠点



2-1 稲沢市の特徴

・福祉課と社協（福祉総合相談窓口）が重層の推進役

福祉課 ⇒ 全体の調整役（財源確保、庁舎内連携、後方支援 等）

社 協 ⇒ 包括的な支援体制づくり（稲沢市 e n モデルの充実）

複雑・複合的な課題を抱えたケースの支援調整

周知啓発（研修会の開催）、情報収集、社会資源の開発 等

・生活困窮者支援をベースに『仕組みづくり』を展開！

稲沢市は 福祉課と社協が一体 となって
重層を推進しています！

2-2 主要5事業の全てに社協が携わっています！

①誰一人取り残さない相談支援事業（包括的相談支援事業）

基幹包括（3名）、基幹相談（2名）、福祉総合相談窓口（8名）、成年後見（2名）

②参加支援事業

福祉総合相談窓口（居住支援・就労準備支援事業）、CSW＝生活支援コーディネーター（居場所づくり）

③地域づくりに向けた支援事業

CSW（生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーター 5名）

④多機関協働事業

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員＝重層の推進役）

⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

福祉総合相談窓口（従来のアウトリーチ）、CSW（早期発見型のアウトリーチ）👉地域に潜在するニーズをキャッチ！

2-3 福祉総合相談窓口の役割

①生活困窮者自立支援事業等の充実

家計改善支援事業、就労準備支援事業、子どもの学習・生活支援事業

②多機関協働事業等（相談支援包括化推進員＝重層の推進役）の充実

アウトリーチ事業、参加支援事業、ひきこもり支援事業（LINE相談含む）

最も重要な役割 ⇒ 『支援者を支援するための仕組み創り』

③居住支援事業（居住支援法人格を取得）の充実 社協では珍しい！

重層の『参加支援事業』に『居住支援』を位置付けて取り組んでいます！

多機関協働担当 最大の役割は、**仕組み創り**

ビジョンを描き、**共感**で皆を巻き込み、人と人とを繋いでいく

仕組み創り $\geq$ 複雑複合ケースの調整

～ 居住支援×SDGs ～

居住支援法人 稲沢市社会福祉協議会

住宅確保要配慮者居住支援法人 愛知第25号(令和4年3月16日 愛知県指定)

住宅確保要配慮者居住支援法人とは、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人として都道府県が指定するものです。

○ 支援対象(稲沢市在住)

生活困窮者、高齢者、障がい者など、住まいにお困りの方

○ 支援内容

① 住み慣れた住居で安定した生活を送るための支援

「家賃滞納」「心身の状態に不安がある」「仕事がない」など

生活を維持することが困難な課題に対して、必要な制度や支援機関に繋がります。

例) 就労支援………生活困窮者自立支援事業(福祉総合相談窓口)

介護保険制度………地域包括支援センター、高齢介護課

障害福祉サービス………基幹相談支援センター、相談支援事業所 など

② 家探しが必要な世帯に対する入居支援

「家賃が高い」「立ち退き」「住み替え」など

市内の協力不動産店と協力し、新しいお住まいを一緒にお探しします。

大家さんに断られてしまう「課題」に対し、支援機関が包括的に支援をすることで、大家さんの不安が軽減されるようアプローチします。

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口(居住支援担当) ☎ 0587-32-1484

〒492-8269 稲沢市稲府町1番地 稲沢市役所東庁舎1階

開設時間：月～金 8時30分から17時15分まで(祝日・年末年始は除く)

支援の流れ(家探し)



(このリーフレットは、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます)

2-4 重層の中心で連携を叫ぶ社協

重層の推進は『主要 5 事業の強化と一体的連動』

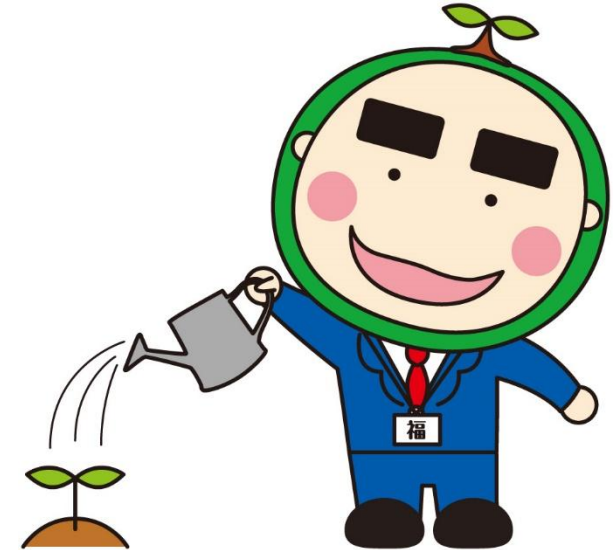
社協がハブとなって多職種連携の強化を図っています！



主要5事業に携わる社協の各部門が連携の起点となって
『多職種（異業種）連携』を広げます！

3 ここからは、稲沢市が目指す 『包括的な支援体制』をご紹介します！

みんなの 『縁』 を育ててます！



3-1 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？

『支援者を支援するための仕組み創り』を目指しています！

（分野を超えた支援者どうしが有機的に繋がり、互いに支えあえる状態）

（誰がどんな相談を受けても、最適な支援機関に最短で繋がる仕組み）

この『理想の支援体制』を『見える化』したものが

『稲沢市 e n モデル』（支援体制のポンチ絵）です！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】

学校
(スクールソーシャルワーカー)
病院
(医療ソーシャルワーカー)
社会福祉法人
消費生活センター
区民・民生委員さん
保護司さん
大家さん
(市役所 関係各課) 等

【高齢】

地域包括支援センター
基幹型地域包括支援センター
(高齢介護課)

【障がい】

基幹相談支援センター
相談支援事業所
(福祉課)

連携

【生活困窮】

福祉総合相談窓口
(福祉課)

【子ども】

こども家庭センター
子育て支援センター
(子育て支援課・保育課・健康推進課)

みんなで一緒に
支援(縁)の輪を
広げよう!!



◎3本柱の強化と一体的な
連動が重要!!

◎私たち全員が当事者です!!

第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)

福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

①見守り等居住支援の充実

②就労(準備)支援の充実

③多様な居場所づくり(人や地域との繋がりの場づくり)

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業
(早期発見型アウトリーチの強化)

福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター

地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや
8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援
につなぎます!



【稲沢市enモデル】

専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)
の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な
支援に繋がります。

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議

(まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解きほぐし)

社協
(福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *関係機関

(市役所の専門職を加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)

(稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協



支援(縁)の輪



第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)

【高 齢】 地域介護予防活動支援事業(高齢介護課)・生活支援体制整備事業(福祉課)

【障 がい】 地域活動支援センター事業(福祉課)

【生活困窮】 生活困窮者支援等のための地域づくり事業(福祉課)

【子 ど も】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)

②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)

異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)

社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の力 × みんなの想い



社協のHPから
ダウンロード
できます。

各種相談

↓
福祉総合相談窓口

↓
重層的支援体制
整備事業

↓
重層リーフレット

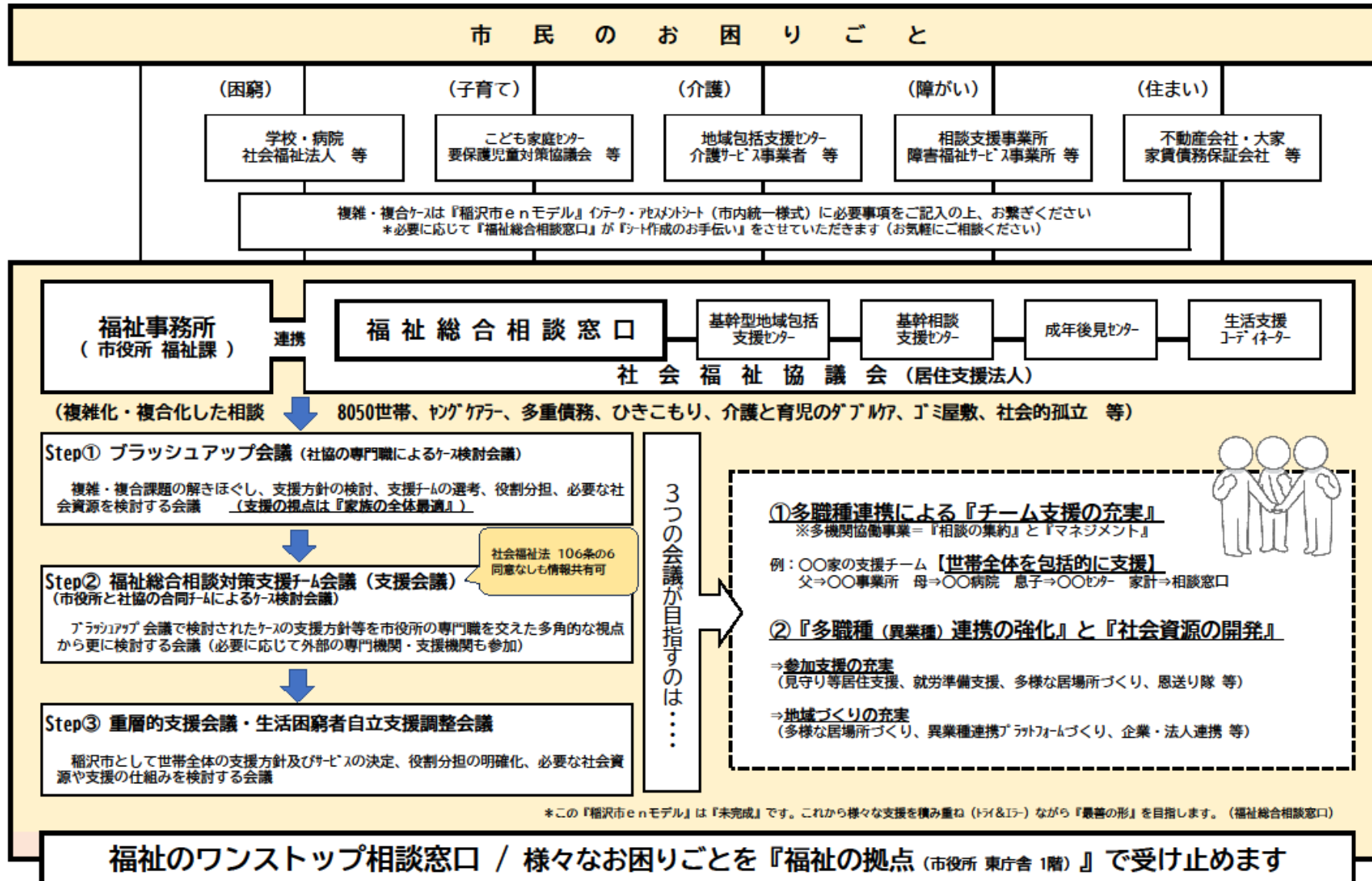
3-2 『稲沢市 e n モデル』とは？

【多職種連携のフロー図】

- ・ 複雑・複合課題の相談受付から支援開始までを可視化したもの
- ・ 福祉総合相談窓口が受付けた複雑・複合課題を抱えたケースは 『3段階のケース検討会議』 で支援方針等をブラッシュアップします！
- ・ これらの会議には、様々な専門職が集まり 『複眼的な視点』 から 『世帯全体の支援方針』 を検討します！

重層的支援体制整備事業 『稲沢市enモデル（多機関協働による『包括的支援体制づくり』の全体像）』（ver.3 2024/6更新）

【みんなで強化するポイント】⇒ ①支援者を支援する仕組み ②どこからでも専門機関に繋がる仕組み ③複雑・複合課題をチームで支援する仕組み



社協のHPからダウンロードできます。

各種相談

福祉総合相談窓口

重層的支援体制整備事業

稲沢市enモデル

複雑・複合的なケースを繋ぐ際の 共通ルール

丸投げ禁止！

3段階の会議で支援精度を高めます！

各会議の検討視点は『世帯の全体最適』と『チーム支援の充実』

step①ブラッシュアップ会議（複雑ケースの解きほぐし及び支援プランの素案作成）



社協の専門職によるケース検討会議（新人相談員のOJT・SV機能を兼ねる）

step②福祉総合相談対策支援チーム会議（『支援会議』）



市役所の専門職を含めたケース検討会議（必要に応じて関係機関も参加します）

step③重層的支援会議（生活困窮者自立支援調整会議）

現場レベルで検討した支援プランや役割分担等を最終決定する会議

対策支援チーム会議（令和7年1月15日）の様子



この日は、豊川市の皆様が見学されました！

【ポイント】

対策支援チーム会議は、参加メンバーの

『スキルアップの場』でもあります！

ケース検討を通し

各分野のベテラン専門職の知識や経験、感性、
アセスメントの視点や関わり方のコツなど
支援のノウハウ（暗黙知）も学び合います！

ブラッシュアップ会議 と 対策支援チーム会議 を

参加者全員のスキルアップの場 にしたい！

(市全体の支援レベルのスパイラルアップの場)

分野を超えた各専門職の知識(形式知)や

支援のノウハウ、感性(暗黙知)を

参加者全員が共有できる場を創っていききたい！

3つの会議では『ケース検討』を通して

『多職種連携の課題共有』や『e nモデルの改善』

『稲沢市に不足する社会資源の開発』

(= 参加支援事業の開発)

も検討しています！



元気になったら、今度は、あなたが、誰かを支えてください
令和5年度開発『**稲沢市恩送り隊**』 ～『パイワード』の仕組み創り～

中日新聞
2023年(令和5年)7月11日(火曜日)

地域で助け合い「恩送り活動」



稲沢市の若手経営者らが、生活困窮世帯の困り事を解決する仕組みづくりに挑戦している。その名は「恩送り活動」。市社会福祉協議会の協力を得て、支援が届かないことで悩む市民と、地域貢献をしたい人々をマッチング。「支援を受けた人が元気になったら、いつか別の人を助ける。そんな良い縁をつなぎたい」と意気込む。

(寺田結)

稲沢の若手経営者ら 清掃など支援届かない人に困っている人と助けたい人 マッチング

六月末、市内のある二戸建て住宅にメンバー三人が集まった。庭の草木が生い茂り、雨漏りの家や駐車場、通学路に飛び出して、通行を妨げている。三人は住人と相談した上で、清掃を開始。持ち込んだ機械を使って、一気に片付けた。

この家住むのは、ひきこもりの男性一人。処理するべきには分かっていたが、近所の目が気になって外に出られず、放置せざるを得なかった。しかし、自治体の制度では現状に対処できないのが現状だ。そこで手を挙げたのが、市内でエスエヌの遺品整理の事業を営む山下雄基さん(三三)＝同市平和町。昨年秋、地域貢献ができないかと市社会福祉協議会に相談

庭生い茂った草木を片付ける「恩送り活動」のメンバー＝稲沢市内で

福祉新聞→
令和5年7月25日

←中日新聞
令和5年7月11日

(本会のホームページに掲載)

困窮者宅の庭の雑木を伐採する恩送り隊



稲沢市社協
恩送り隊が始動
次の困窮者につなぐ

東海・北陸
愛知県の稲沢市社会福祉協議会は、困窮者支援の一環として6月に「恩送り(パイワード)隊」の活動を始めた。パイワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返してつないでいく」と。2000年に映画のテーマで取り上げられ、広まった。同社は恩送り隊の活動をこもりの人やヤングケアラーなど、制度の届きにくいことに支援の手を差し伸べる地域の共助やネットワークを育んでいく。恩送り隊は、同社協が市から受託している重層的支援体制整備事業の中の参加支援事業として取り組む。困窮者を支援するボランティア(企業や社会福祉法人など)を募集し、同社協の福祉総合相談窓口で支援が必要と判断された困窮者、引きこもりの人やヤングケアラーなど、制度の届きにくいことに支援の手を差し伸べる地域の共助やネットワークを育んでいく。就労体験受け入れなどを行う。困窮者はいつか元気になったらできる範囲で誰かを支援する。恩送り活動の輪を広げていく。

パイワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返してつないでいく」と。2000年に映画のテーマで取り上げられ、広まった。同社は恩送り隊の活動をこもりの人やヤングケアラーなど、制度の届きにくいことに支援の手を差し伸べる地域の共助やネットワークを育んでいく。就労体験受け入れなどを行う。困窮者はいつか元気になったらできる範囲で誰かを支援する。恩送り活動の輪を広げていく。

パイワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返してつないでいく」と。2000年に映画のテーマで取り上げられ、広まった。同社は恩送り隊の活動をこもりの人やヤングケアラーなど、制度の届きにくいことに支援の手を差し伸べる地域の共助やネットワークを育んでいく。就労体験受け入れなどを行う。困窮者はいつか元気になったらできる範囲で誰かを支援する。恩送り活動の輪を広げていく。

(複戸新)

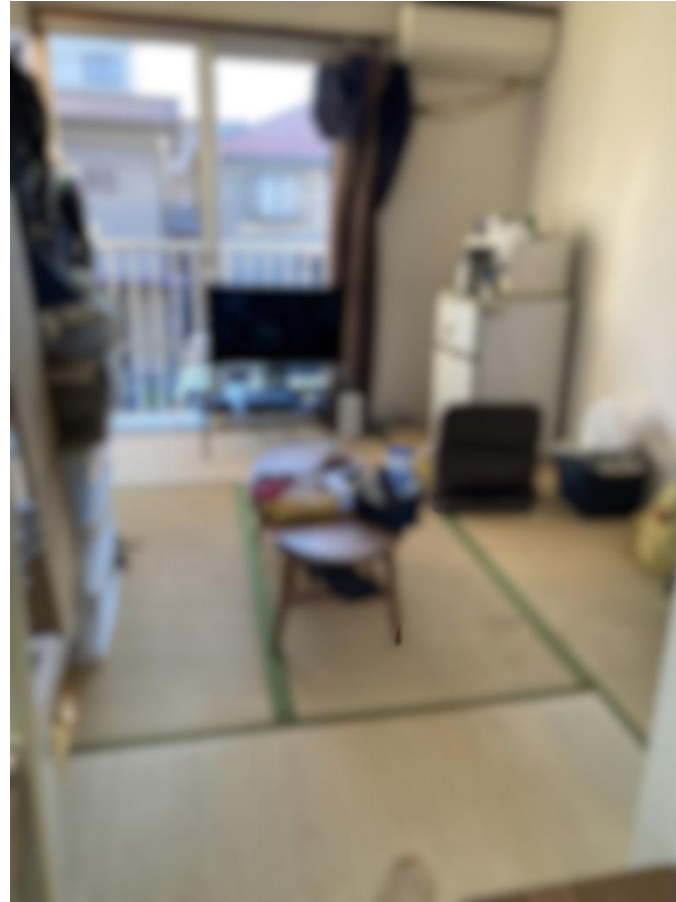
恩送り隊の活動紹介

(令和6年5月 単身40代男性)

活動前



活動後



【お礼】

思っていたよりも綺麗になり、とても気持ちよく過ごせるようになりました。（40代男性）

【恩送り隊の感想】

今回も困っている方のお役に立てることができました。家主と一緒に片づけを行い、最後に笑顔でお礼を頂けたことがこれからの励みになりました。（隊長の山下氏）

ちなみに、本会の独自事業『居住支援事業』も

相談支援員の『狂気的情熱』から4年越しで立ち上げた

参加支援事業のひとつです！

(詳しくは、本会のHPもしくはNORMA社協情報
2024年10・11月号 をご覧ください！)



3-3 『参加支援の充実』が一番難しい！

～ 『相談支援』と『地域づくり』の架け橋～



参加支援事業は『既存の仕組みでは対応できないニーズ』に対応するため、社会資源を活用し、社会との繋がり創りに向けた支援を行う事業

既存の社会資源とのマッチングや

『ニーズに合った、新しい支援メニューを創る事業』

＊オープンイノベーション

(＝社会資源開発) ＊組織内外の知識や知恵を組み合わせ付加価値を創造すること

(社会資源開発)

参加支援充実の公式 (*私の仮説です。只今、検証中！)

$$\underline{A \times B \times C = \text{『恩送り隊』 (無償の地域貢献活動)}}$$

恩送り隊は、社協職員の『妄想』と若き経営者の『熱い思い』から生まれました！

A 既存の仕組みでは、解決できない 『ニーズ (困りごと)』

(生活困窮世帯の①ゴミ屋敷片づけ、②草木の伐採、③引越しの手伝い 等)

B 社協職員の 『狂気的情熱 と 創造 (妄想) 力』  ここが『0』だと…

C 稲沢市民の 『地域貢献活動への熱い思い』

狂気的情熱 が全ての原動力

私たちは、参加支援の充実を通して

『恩送り（* Pay it forward）の文化』も

広めていきたい！（『善意の好循環』を創りたい！）

* 自分が受けた善意を誰かに送ることで善意を繋いでいくこと

稲沢市は、相談支援や地域づくり等、これまで取り組んできた

『社協の強み』を活かした重層を展開しています！

重層は、市町村の『創意工夫』で取り組むもの！

だから『1700通りの形』があっというんです！

4 次は、具体的な取り組み方 『How-to 重層』をご紹介します！

エッホ エッホ



『重層推進は、3手順でOK！』って
みんなに伝えなきゃ！

重層の推進とは、〇〇を楽しむことだ！

重層推進は、たったの3手順でOK！



Step① 重層移行の前に・・・（ここ、超重要！）

・ まず、『何のために取り組むのか？』を明確にする！

・ 次に、重層推進担当者（自治体の旗振り役）を選任する！

～ 選任のヒント ～ 重層は『創意工夫』で取り組むもの！

なので、『創意工夫』を『やりたいほうだい！』と読める人
あれもやりたい！こんな支援体制を創りたい！とワクワクできる人
自ら課題を設定し（他者を巻き込みながら）取り組んでいける人が適任！

何のために取り組むのか？

ここを曖昧にしてスタートすると 迷走 します！

私もこれまで様々な先進地を見てきましたが、
先進地と呼ばれる所は共通して

リーダー

『強い旗振り役』となる職員 がいいました！

Step① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

- ・まず、担当者自身の『内発的動機（主体性）』を高める！

重層推進担当には『自ら考え、行動し続ける力 と 楽観力』が必要！

↑このスキルを持つ『自治体職員の有無』が重層推進の明暗を分けます！

- ・重層の基礎理解を徹底する 『意識が高い』だけでは ダメ！

『制度』 『先進事例』 『我がまちの状況』 の3つを理解する！

『理解（腹落ち）した』とは『自分の言葉で中学生に説明できる』状態
基礎理解に最適！ ⇒ 『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

Step② 情報収集（T T P A）と内情把握

- ・ 先進地を視察してT T P 『A』（様々な『重層の形』を知ろう）

重層推進のセオリーは、ゼロからイチを生み出すのではなく

先進地の取り組みを徹底的にパクって、我がまちの形に『アレンジ』する！

【注意】丸パクりは機能しません！ なぜかって？ 地域特性（社会資源）が違うから！

- ・ 我がまち（地域特性や社会資源等）の把握 （内側の把握）

内側の把握 = 既存事業や支援体制、社会資源の棚卸（再確認）

これを知らずして『理想の支援体制』を描くことは、できません！

重層推進のヒント①

『既存の強み（支援体制・社会資源）を活かす！』

棚卸ができたなら『既存の強み（支援体制）』をベース（土台）に『重層の主要5事業』を連動させる！

【担当者の独り言】

私たちは、稲沢市の既存の強み『生活困窮者支援の仕組み』を土台に、先進地の〇〇モデルをパクって『稲沢市e nモデル』を創りました！

既存の **強み** × 先進地の **TPA**

= 私たちが目指す包括的な支援体制

宗像市さんの **強み** は何ですか？

Step③ 仮説形成と仮説検証（ここ、重層担当の醍醐味！）

- ・ 仮説形成（ビジョンを『妄想し、見える化』させる）

厚労省の思い、社会資源、地域特性、強み、先進事例等を総合的に勘案し

担当者の妄想（理想の支援体制）を『見える化』させる！ 👉ここ重要

『見える化したビジョン（概要図）』がないと試行錯誤すらできません！

- ・ 仮説検証（周知啓発 ⇒ 巻き込み ⇒ 試行錯誤 ⇒ 活動評価）

みんなを巻き込んで試行錯誤する『過程』こそが『重層推進』そのもの！

皆を巻き込んでいくためには

(皆が正しく認識できる)

『共通のビジョン』が必要！

* 稲沢市の場合は『稲沢市enモデル』です！

宗像市重層的支援体制整備事業を核とした地域福祉ビジョン

感服いたしました！（分かりやすい！パくらせてほしい！）

後は、この図に行政や社協、関係機関の役割を落とし込んで
皆を巻き込み、様々なケース対応、試行錯誤を繰り返すのみ！

社協の皆さん、

左半分（地域との繋がりづくり）が『社協の見せ場』ですよ！

ビジョン（理想の支援体制の概要図）を描く際のポイント

- ① 既存事業（我がまちの強み）を活かしているか？
- ② 重層の主要5事業が連動しているか？
- ③ 先進地の取り組みをパクって（オマージュして）いるか？
- ④ 重層推進担当者の妄想（想い）が詰まっているか？
- ⑤ 分かりやすい紙 1 枚の相関図として描けているか？

『理想の支援体制の概要図（ビジョン）』が描けたら

後は、みんなを巻き込んで（口では簡単に言えるが超困難！）

試行錯誤（実践と検証）を繰り返すだけ！

じゃあ、どうやって巻き込んでいくのか？

一つは、ケース支援を通して巻き込んでいく
(協 働)

もう一つは、

積極的に関係機関(関係各課)に出向き、

対話(雑談)を重ねて巻き込んでいく

重層推進のヒント②

『巻き込むときは、相手のメリットを強調する！』

- ・人は、利益と感情で動く！？

お願いベースや事業説明で『人が動く』なら苦勞しません！

- ・包括的な支援体制づくり（ビジョン実現の先にあるもの）が
自分にとってどのような利点があるのか強調する！

概要図なんて未完成でも、間違っているとしても全く問題なし！

みんなで試行錯誤する過程こそが重層の推進 なんだから！

とにかく 『動き始めること』 が重要です！

重層推進のヒント③ 『連携の定義を明確に！』

『連携しましょう！』では『連携できません！』

なぜなら『連携の定義が人によって曖昧』だからです！

・ 私たちの『**連携の定義**』は、次の①②を満たす状態です！

①互いの顔、役割・業務内容、連絡先を知っている

②気軽に相談できる関係になっている

⇒『仕事以外の雑談』もできる関係なら言うことなし！

抽象的な表現 が重層推進を阻害する！？

他者を巻き込む時は

定義の明確化 と 具体化(言語化)を意識する！

重層推進のヒント④

『連携の秘訣は、対話（雑談）と協働』

- 用がなくても『対話（雑談）』する！（単純接触効果の応用！？）

多職種連携の要は『関係者間のコミュニケーションの充実』に尽きる！

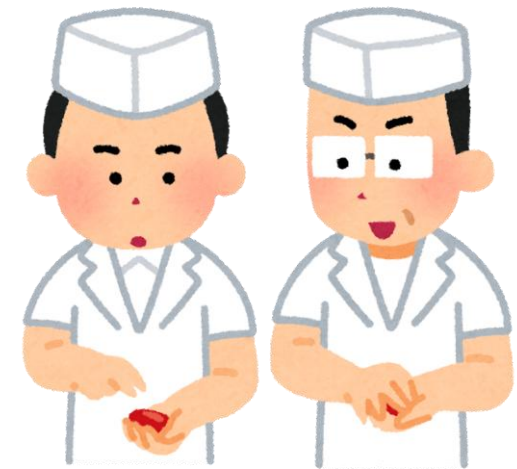
多職種連携は、様々な関係者との『何気ない会話（雑談）』と『苦楽を共にする支援の過程（協働）』で育まれます！

対話 × 協働 ⇒ 共感 ⇒ 共創

5 課題への挑戦

ベテランのスキル（支援の感性・機微＝暗黙知）を
如何にして、次の世代へ伝えていくか・・・

- 5-1 3年間で見えてきた課題
- 5-2 『人財育成』への挑戦
- 5-3 『腹落ち⇒我が事⇒協働』への挑戦
- 5-4 『活動評価』への挑戦



5-1 3年間で見えてきた課題

課題①『人財育成』

ベテランのスキルや感性を如何にして次の世代に伝えていくか？

課題②『当事者意識の欠如（＝周知啓発不足）』

まだまだ『他人事』（私、重層担当じゃないので・・・）

如何にして支援体制づくりに我が事として巻き込んでいくか？

課題③『重層推進の活動評価』

重層推進は、数字の大小だけで評価できない！

体制づくりや地域づくり等『見えないもの』をどう評価するか？



5-2 『人財育成』への挑戦

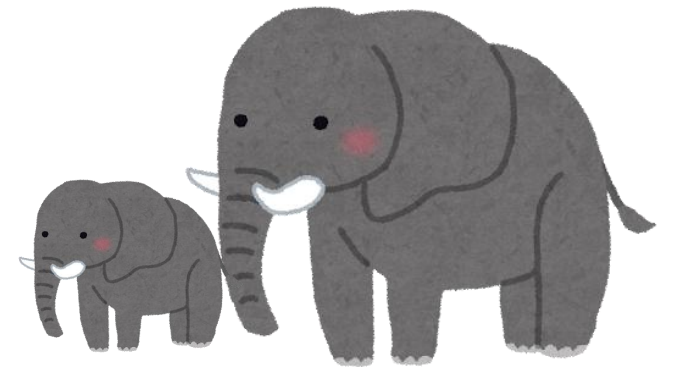
『組織の枠を超えた「人財育成」の場を創る！』

- ・ 『SECI（セキ）モデル』を応用し、組織の枠を超えた『人財育成の場（ブラッシュアップ/対策支援チーム会議を想定）』を創りたい！
- ・ ケース支援を通して 『みんなが成長する仕組み』を創りたい！
- ・ 異分野のベテラン支援員の 『知識や経験（形式知）と感性（暗黙知）を共有できる場（学び合える場）』を創りたい！

5-3 『腹落ち⇒我が事⇒協働』 への挑戦

『どう働きかければ、人は動くのか？（永遠の課題！）』

- ・ 『ナッジ理論』 を取り入れて、重層の意義と効果（メリット）を市内の関係者に 『分かりやすく』 伝えていきたい！
- ・ 協働への 『第一步』 を如何にして促すか？
ヒントは、行動経済学にあり！？



語句の説明

【S E C I モデル】 *ナレッジマネジメントの基礎理論

個人が蓄積した知識や経験（暗黙知）を組織全体で共有して形式知化し、
新たな発見を得るための知識創造プロセス

【ナッジ理論】 *行動経済学の理論の一つ

人々が強制的にではなく、よりよい選択を自発的に取れるようにする方法
を生み出すための理論

5-4 『活動評価』への挑戦

『評価なくして、改善なし！』

目下、重層的支援体制整備事業の評価指標の一つ

『A + B + Cモデル』を勉強中！

書籍『重層的支援体制整備事業における評価活動のすすめ』
を何度も読み直していますが、未だに理解できません！
(誰か教えてください・・・)



最後のテーマ

重層を通して

社協の存在意義 を考える！

6 最後に『社協が重層に取り組む意義』を 叫んで終わりにします！

地域福祉の中核を担っている社協は
10年先も安泰だケロ・・・

- 6-1 重層は社協そのもの！
- 6-2 社協が重層に取り組む意義
- 6-3 せめて、社協らしく
- 6-4 断じて行えば、鬼神もこれを避く！



社協の皆さんに問題

重層事業 と 社協事業 の 共通点 は何？

目指す先は、どちらも同じ

地域共生社会の実現

6-1 重層は社協そのもの！

3年間取り組んできて確信した！

重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

重層は、これまで積み上げてきた『社協事業の延長線上』にある！

重層の主要5事業

相談支援、アウトリーチ、多機関協働、参加支援、地域づくり・・・

重層の主要5事業 は、

これまで社協が取り組んできた事業と同じ！

全部、社協の得意分野 じゃないか！

6-2 社協が重層に取り組む意義

- ・ 社協にとって重層は・・・ 『既知の事業』

しかも、他法人・団体等に比べ、圧倒的なアドバンテージ（優位性）がある！

特に 『地域づくり（CSW）』 は、社協の独壇場！？

- ・ 重層の半分は『地域づくり』 で出来ています！

重層5事業の中でも『地域づくり』と『参加支援』は、難易度が高い事業だからこそ、社協が『その存在感』を見せつける『絶好の場』となる！

重層 5 事業の難易度 (全事業に携わった私の見解です！)

SS 地域づくり事業・参加支援事業  社協の見せ場！

S 多機関協働事業

A 相談支援事業・アウトリーチ事業

理由：全部難しいが、SSに行くにつれ、マニュアルや正解、評価基準が曖昧になり『創造力』『実行力』『コミュカ』が必要になるから！

重層の出来は、地域づくり を担う

社協の覚醒 にかかっている！

私たちは、最も得意とする **地域づくり** から

地域共生社会の実現(=重層事業の推進)に

貢献する責務がある！

6-3 せめて、社協らしく

- ・ **社協なら、失敗を恐れず突き進め！**

真剣に考え、悩み、チャレンジした結果に『失敗』なんてものはない！

本当の失敗は『何もしない』こと！

現状維持、前年踏襲、思考停止、指示待ち、机上の空論で満足・・・

- ・ **そろそろ、目覚めろ！**

『地域福祉の中核を担う社協』と言われていたのは、昔の話・・・

『行政の役割が明記』された今、『現状維持』では、もう、生き残れない！

そろそろ、目を覚まして、動き出せ！！！！

社協に蔓延する『根拠のない安心感』をぶっ壊せ！

(現状維持バイアス)

全国の様々な取り組みを見てきてよく分かった！

NPOや社会福祉法人等の **地域づくり** には

目を見張るものがある！（本当にすごい！）

挙句の果てには・・・

社会福祉法 第6条に『行政の責務』までが明記

包括的な支援体制づくり や 地域福祉の推進 は、

行政が責任をもって進めていくだ？

社協は、もう、あてにされていない？

私たちは、井の中の **ゆでガエル** …



私たちは、

(自主財源の減少、NPOや他の社会福祉法人等の台頭……)

社協が置かれている**危機的な状況**に

早く、気づかないといけない！

いつまでも、同じ事業の繰り返しでは
生き残れない！

6-4 断じて行えば、鬼神もこれを避く！

私たちに必要なのは『覚醒』と『百折不撓の精神』

私たちは、これまで培った 社協の強みを活かして稲沢市の重層を牽引する！

たとえ、どんな困難があっても、乗り越え、地域共生社会を実現させる！

覚醒した 私たちなら、必ずできる！

覚醒のヒントは、あなた自身と社協の
ミッション（使命、役割、存在意義）を
問い直すこと！

ミッションは、他人に聞くものではない！

自分(達)の内面から絞り出すもの！

これが 内発的動機 となって覚醒に導く

重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

(社協 プライド)

みんなで『社協の矜持』を

見せつけてやろう！



まとめ①

1 重層的支援体制整備事業について

- ①『包括的な支援体制』を創るための事業の一つ（重層は手段！）
『支援者を支援する仕組み』を創るための事業
- ②重層推進は、行政及び関係者『全員』で取り組むもの
- ③『何のために取り組むのか？』⇒ ここを曖昧にすると迷走する！

2 重層推進担当者（旗振り役）に求められるもの

- ①内発的動機（自ら考え、行動する力）と楽観力
- ②重層の基礎理解 ⇒ 『地域共生社会のポータルサイト』（超おすすめ！）
- ③人を巻き込む力（熱量、伝える力、コミュ力、マネジメント力 等）

まとめ②

3 重層推進の効果

複雑・複合的な課題に対応しやすくなるだけではなく、他分野の専門職との協働（チーム支援の充実）によって、自分の仕事の満足度も高まる！

4 重層推進のヒント

- ①我がまちの『既存の強み』を活かす！
- ②巻き込む時は『相手のメリットを強調』する！
- ③連携の定義を明確に！⇒『抽象的な表現』では、伝わらない！
- ④連携の秘訣は『対話（雑談）と協働』
- ⑤とにかく、動け！ ⇒ 重層推進は、皆で取り組む『過程』が全て！

まとめ③

5 なぜ、社協が重層に取り組むのか？

①社協にとって重層は『既知の事業』（特に『地域づくり』）

これまでの取り組み実績から圧倒的なアドバンテージ（優位）がある！

社協の強みを最大限に活かすことができる！

②重層の半分は『地域づくり』で出来ています！

重層の出来は『地域づくり』を担う『社協の覚醒』にかかっている！

③『地域づくり』や『参加支援』等、マニュアルや一つの正解がない

取り組みこそ『フットワークが軽い社協だからできる』のでは？

重層は、社協の強みを活かせる だけではなく、

社協のミッション（使命、役割、存在意義）を

再確認するツールにもなる！

社協は、何のために存在する のか？

おまけ『どうせなら、遊ぶように働こう！』



・『仕事＝遊び（リアルRPG）』

私は、異動するたびに『自分だけの困難な裏目標（ビジョン）を設定』し、仲間と共に困難を乗り越え、成長し、目標達成する過程を楽しんでいます！

・重層推進は『ほとんど思い通りにいかない』からこそ、面白い！

重層推進と並行して『人財育成ゲーム』も楽しんでいます！

『人財育成』も重層推進同様、ほとんど思い通りにいきません！

周りには、個性豊かで破天荒な仲間たちが・・・。だからこそ、面白い！

- ・ **困難や逆境が私を強くする！**

時々、天罰として『突発性難聴』や『逆流性食道炎』『原因不明の咳』に見舞われることがあります、（このように）全てネタにしています！

- ・ 『仕事＝遊び』 とは 『夢中になる』 ということ！

皆さんも、本当に『やりたいこと』があるなら勇気を出して提案しよう！
上司は、皆が『夢中になれる職場づくり』に取り組もう！（心理的安全性）

- ・ 仕事を遊びに変えるには 『主体性』と『楽観力』 が必要です！

自分で創った（工夫した・考えた・企画した）仕事は、本当に面白い！

嬉しいことも、辛いことも、腹ただしいことも

沢山ありますが、なんだかんだ言って……

私は、『今』が一番楽しい！

たぶん、5年後も10年後も『同じこと』を言っていると思う(笑)

あなたは、『今』の仕事、楽しんでいますか？

自分で選んだ仕事なら、楽しんだもん勝ちだ！

仕事を楽しめば、楽しむほど、重層も社協も充実します！

ありがとうございました！

目標(地域共生社会の実現)が同じならば、

重層の推進とは、社協を楽しむこと だ！